

# 多元文化

第 12 号

# Transcultural Studies

Vol.12

2022

第十二号

2022



2022

早稻田大学多元文化学会

早稻田大学多元文化学会

Association for Transcultural Studies  
Waseda University

## 編集後記

『多元文化』第十二号をお届けします。コロナ禍の出口はもうそろそろ見えてくるのでしょうか。編集作業のなかでも、編集委員会などは対面でおこなうことになりました。

多元文化学会春期・秋期両大会は、前者においては聖徳太子千四百年遠忌を記念してその伝承について、後者では七つのゼミによる学生研究発表、一本の一般研究発表、そして今年度ご着任のリーブズ クリストファー先生による講演が実施されました。

両学会大会の内容のほか、一本の論文、一本の書評など、昨年度に比べ、こじんまりとした構成になりました。グローバル社会のあり方が根本的に問い直されるべき世界のなかで、次号の内容、編集体制はどのようになっていくのか。ひきつづき、暖かいご支援を賜ります様、お願い申し上げます。

(伊川)

(表紙) 貨幣博物館 (Museu do Dinheiro) (2022年8月20日、伊川健二撮影)

ポルトガル・リスボンの博物館。ポルトガルを中心とした貨幣、金融の歴史に関する博物館の地下に、「ドン・デイスの城壁 (Muralha de D. Dinis)」が展示される。ドン・デイスは、13～14世紀のポルトガル国王だが、その時に築造されたリスボンの城壁が、時を経てリベイラ王宮 (Paço da Ribeira) の壁として転用されるようになった。リベイラ王宮については前号表紙解説を参照。酸化鉄の塗料で塗られた写真部分が王宮内部を彩っていた。1755年の大地震と津波で崩壊した王宮の数少ない現存部分である。

(裏表紙) ロッシオ広場 (2022年8月18日、伊川健二撮影)

正式にはドン・ベドロ4世広場といわれるリスボン繁華街の広場。この広場の東側(写真右手)に、かつて国王ドン・ジョアン2世によって創建された(『年代記』56章)病院があった。ヨーロッパ最先端の医療技術を誇り、諸聖人病院 (o Hospital de Todos os Santos) とも王立病院ともよばれていた。1542年にポルトガル人が日本へ初接近したことを伝える『発見記 (Tratado dos Descobrimentos)』の著者、アントニオ・ガルヴァン (António Galvão) が、1557年に生涯を終えた地でもある。

天正遣欧使節はリスボン滞在中(往路)にここを訪れている。ルイス・フロイス『九州三侯遣欧使節行記』は、病院が優れた建築であり、上部と壁面に新たに絵が描かれるようになったと伝える。この頃に成立したとされる、フェルナン・ゴメス (Fernão Gomes) による病院付属教会の回廊天井画は、現在にいたるまでポルトガル国立図書館で保存され、インターネット公開されている (<https://purl.pt/14998>)。

多元文化 第十二号 定価一〇〇〇円

令和五年二月二十八日 発行

編集者

『多元文化』編集委員会

代 表

伊川 健二

発行者

早稲田大学多元文化学会

代表委員

垣内 景子

発行所

早稲田大学多元文化学会

〒162-8644 東京都新宿区戸山一―124―1

早稲田大学文化構想学部多元文化論系室内

印刷所

株式会社 正文社